



かほくがた

豊かな河北潟に
夢のある干拓地に



CONTENTS

河北潟の仲間たち・27 「イモリ」 高橋 久	2p
河北潟レッドリストの発表にあたり	3p
河北潟レッドリスト公表	4p
シリーズ干拓前後の河北潟- 陸水学的にみた 干拓前後の河北潟の変遷(6) (潟編) 定塚謙二	6p
私の見た河北潟干拓地の30年(6) (干拓地編) 大串龍一	7p
〈お知らせ・活動案内〉	8p

こなん水辺公園でヨシ刈り実施

2012年11月23日、12月15日、16日の三日間、河北潟の南にある「こなん水辺公園」でヨシ刈りがおこなわれました。こなん水辺公園救援隊の活動です。11月23日は金沢大学の学生も参加しての活動でした。

河北潟周辺にはかつて葦場と呼ばれる場所があり、そのヨシは周辺民家の屋根材や雪廻いなどに利用されていました。当時のようにヨシが活用され、良い状態の葦場があれば、外来植物が入り込みにくくなり、河北潟地域本来の植生が保たれやすくなります。

現在のこなん水辺公園はヨシがたくさんあるように見えますが、実際には純粋なヨシ群落は少なく、オギやヒメガマ、マコモ、セイタカアワダチソウなど他の植物が混ざっています。また、ヨシの丈や茎の太さにはばらつきがあります。質の良いヨシを増やすためには、適切な手入れが必要です。今回は主に手鎌でヨシを刈り、ヨシの生育を促すためにヨシ以外の草も刈り取りました。

ヨシ刈りをしながら、刈り取ったヨシで小屋やヨシ舟などを作ってはどうかという意見が出ました。近いうちに公園内にヨシを利用した建造物ができるかもしれません。その他にも、こんなふうに使ったら良いのでは?というアイディアがありましたら、ぜひお寄せください。

第27回 イモリ

カコちゃん かほくがた
ショウくん ナルドレン



イモリ、標準和名はアカハライモリといい、体の腹側に鮮やかな赤と黒のコントラストのまだら模様が印象的な動物です。両生類の仲間で、卵は水中に産卵され、孵化した幼生はしばらく水の中で過ごします。変態して陸に上がり何年かを陸上で過ごしたあと、成熟して産卵場に戻ると再び水の中で生活するようになります。背中側と対照的な腹の目立つ模様は、敵を威嚇したり、皮膚に毒をもっていることを知らせる効果があると考えられています。どこにでもいるといっていい身近な小動物でしたが、全国規模での減少が確認されており、ついに環境省のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されました。河北潟周辺の水田にも、かつてはアカハライモリが生息しており、生息しているのが当たり前のことと思っていたましたが、記憶をたどってみると、最後にアカハライモリを見たのは、かなり以前だったことに気がつきました。そこで河北潟の生物をよく知る方に、「最近河北潟の周辺でアカハライモリを見ましたか」と訪ねてみたところ、誰からも「見ていない」という返事でした。ところが、河北潟の周辺の集落で生まれた年配の方々に聞いてみると、「あそこにもいた、ここにもいた」「漁の時に一緒に捕れた」などと、腹の模様とともに鮮明な記憶として残っていることが分かりました。

かつては河北潟の生物として普通に見られたアカハライモリは、いつの間にかこの地域からは姿を消してしまったようです。河北潟地域におけるアカハライモリの生息場所は水田やその周辺の土水路、河北潟に流れ込む河川の河口付近にできる湿地などでした。多くの水辺が改修されてコンクリートの護岸となったり、ベンチフリュームの水路に変わったりしたことで、成体が普段潜むことのできる水域が無くなってきたこと、田んぼの畦の除草剤散布が徹底されるようになって水辺に隣接した草地がなくなり、成熟するまでの若い個体が生息できる環境が減少したこと、乾田化により水たまりなどの越冬場所が少なくなったことが、消失の原因として考えられます。河北潟の周辺の里山にはまだ残っているはずですから、河北潟の周辺の農地などでイモリが棲めるような環境が再生されれば、再び戻ってくる可能性も考えられます。しかし、里山でも生きものが減っている現状があり、できるだけ早く、河北潟でさまざまな生物が生きることができる自然再生が進むことが望まれます。（文 高橋 久）

『河北潟レッドリスト』の発表にあたって

このたび河北潟湖沼研究所では、「河北潟レッドリスト」を発表しました。河北潟に生息する野生動植物のうち、保全を要する種についてリストアップしたものです。環境NPOからの地域絶滅への警鐘として、河北潟の野生生物がおかれている状況を明らかにしました。（4～5ページ参照）

地域版レッドリストの意義

河北潟は貴重な自然環境が残る地域ですが、水辺環境の劣化や市街地化の進行はとまらず、多くの野生生物の生息状況は悪化しています。こうした中、地域絶滅の恐れのある種に焦点を当てた保全対策が急務となっていますが、河北潟における保全の基準は示されておらず、一部の種を除いて保全への対応は不十分なままとなっています。そうしたことから、河北潟で危機にある動植物をリストアップした地域版レッドリストの必要性を認識し、10年ほど前から取り組むべき課題としてあげていました。自治体の発行するレッドリストも地域版ではありますが、たとえば石川県では能登半島の海岸から白山の高山帯までの、「県」という区切りの中全体が対象となることで、加賀地方では少ないが能登地方では多いなど、絶滅危惧種の判断が難しい状況が生まれます。県単位のレッドリストでは、河北潟のような限られたエリアの実情を抑えることに難しさがあります。より小さな単位でのレッドリストが作成されることにより、地域ごとの生息地と種を守るために基礎情報が整理され、絶滅の回避策につながるものと考えられます。

メダカやカワウソやオニバスのようにTVや新聞などで報道される生物は一般に広く知られていますが、多くのレッドリスト種はあまりよく知られていません。ごく身近なところにいる生物であっても、存在すら知られていない状況があります。河北潟での野生生物保全は、地域の理解と地域の取り組みが重要になると考えています。その

ため、河北潟レッドリストは、多くの方々に関心を持っていただることを重視し、野生動植物の生息の現状と問題点を周知することを第一の目的としています。



選定委員会の様子

河北潟レッドリストの選定

河北潟レッドリストの選定作業をすすめるために、専門家8名によるレッドデータブック制作委員会を設置しました。分類群ごとの担当者により、データ収集と整理を進め、リスト案の協議を重ねました。2回の選定委員会により、レッドリスト種が選定されました。対象エリアは、河北潟本湖と周辺の低湿地帯を基本としています。

河北潟レッドリストの選定基準

【絶滅】 河北潟とその周辺の低地において、すでに絶滅したと考えられる種および群落（以下、群落省略）

【減少】かつて河北潟に数多く生息していたが、その後減少・激減した種

【環境】生息に適した環境が急激に失われている種

【希少】分布が限られている種（広く見て河北潟にしか生息しない種、または、河北潟の中でもわずかにしか生息しない種。）

【注目】河北潟に特徴的な種、その他注目すべき種
上記5つのカテゴリーは並列的に扱います。また、種のみだけでなく、衰退が著しい植物群落も対象としました。

本活動の実施にあたり、財団法人国際花と緑の博覧会記念協会より助成金を賜りました。豊富な写真とカラーページにより、干拓から50年間の河北潟の自然と野生生物に関する情報を集大成した「河北潟レッドデータブック」を発行することができました。

河北潟レッドリスト

2012年12月

和名	学名	科名	選定基準※	県	国
【植物】					
イチョウウキゴケ	<i>Ricciocarpus natans</i>	(ウキゴケ)	環注	-	NT
シャジクモ	<i>Chara braunii</i>	(シャジクモ)	環注	-	VU
ミズワラビ	<i>Ceratopteris thalictroides</i>	(ミズワラビ)	環注	NT	-
サクラタデ	<i>Persicaria macrantha</i> subsp. <i>conspicua</i>	(タデ)	減環	-	-
ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i>	(スイレン)	絶	NT	
オニバス	<i>Euryale ferox</i>	(スイレン)	絶	DD	VU
コウホネ	<i>Nuphar japonica</i>	(スイレン)	絶	NT	-
マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>	(マツモ)	絶	II	-
ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i>	(ドクダミ)	減環	NT	-
ゴキヅル	<i>Actinostemma tenerum</i>	(ウリ)	注	-	-
ホザキノフサモ	<i>Myriophyllum spicatum</i>	(アリノトウゲサ)	減環	II	-
ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i>	(ミソハギ)	減環希	II	VU
ウスグロショウジタデ	<i>Ludwigia piloboides</i> subsp. <i>greatrexii</i>	(アカバナ)	希注	I	NT
サジオモダカ	<i>Alisma plantago-aquatica</i> var. <i>orientale</i>	(オモダカ)	希注	II	-
ウリカワ	<i>Sagittaria pygmaea</i>	(オモダカ)	減環	-	-
クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i>	(トチカガミ)	減環	II	-
トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i>	(トチカガミ)	減環希	I	NT
ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>	(トチカガミ)	絶	II	VU
セキショウモ	<i>Vallisneria natans</i>	(トチカガミ)	減環希	I	-
エビモ	<i>Potamogeton crispus</i>	(ヒルムシロ)	減環	NT	-
ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i>	(ヒルムシロ)	絶	-	-
センニンモ	<i>Potamogeton maackianus</i>	(ヒルムシロ)	絶	I	-
リュウノヒゲモ	<i>Potamogeton pectinatus</i>	(ヒルムシロ)	絶	I	NT
ヒロハノエビモ	<i>Potamogeton perfoliatus</i>	(ヒルムシロ)	絶	DD	-
ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i>	(ミズアオイ)	減環希	I	NT
ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i>	(ミツガシワ)	絶	I	NT
アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	(ミツガシワ)	減環希	II	NT
シソクサ	<i>Limnophila chinensis</i> subsp. <i>aromatica</i>	(ゴマノハグサ)	減環希	II	-
キクモ	<i>Limnophila sessiliflora</i>	(ゴマノハグサ)	減環	NT	-
セイタカヨシ	<i>Phragmites karka</i>	(イネ)	希注	II	-
ミクリ	<i>Sparganium erectum</i>	(ミクリ)	減環希	II	NT
ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	(ミクリ)	希	II	NT
コウキヤガラ	<i>Bolboschoenus koshevnikovii</i>	(カヤツリグサ)	注	-	-
クログワイ	<i>Eleocharis kuroguwai</i>	(カヤツリグサ)	減環	-	-
フトイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>	(カヤツリグサ)	絶	II	-
イヌヌキモ	<i>Utricularia australis</i>	(タヌキモ)	減環希	NT	NT
タウコギ	<i>Bidens tripartita</i>	(キク)	減環注	-	-
タカサゴロウ	<i>Eclipta thermalis</i>	(キク)	減注	-	-
オグルマ	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>japonica</i>	(キク)	減環希	I	-

【植物群落】
ヨシ群落
沈水植物群落

【哺乳類】 アズマモグラ *Mogera imaizumii* (モグラ) 環注 - -

【鳥類】					
コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	(カモ)	滅注	-	-
ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	(カモ)	減	NT	-
トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	(カモ)	減希	II	VU
ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	(カモ)	減	-	-
カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	(カモ)	減	NT	-
カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	(カイツブリ)	滅注	-	-
ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>	(カイツブリ)	減	-	-
サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>	(サギ)	減希注	I	EN
ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	(サギ)	減環希	I	NT
ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	(クイナ)	減希	I	NT
バン	<i>Gallinula chloropus</i>	(クイナ)	減	-	-
カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	(カッコウ)	減環注	-	-
ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	(ヨタカ)	減希	II	NT
ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	(チドリ)	減	-	-
ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	(チドリ)	減	-	-
チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	(シギ)	減	-	-
ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	(シギ)	減	-	VU
トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	(シギ)	減	-	-

河北潟レッドリストに選定された生物：植物39種と2つの植物群落、動物71種（哺乳類1種、鳥類32種、両生類・爬虫類6種、魚類8種、昆虫類14種、その他の無脊椎動物10種類）

学名	科名	選定基準※	県	国
ハマシギ	(Calidris alpina)	減	-	NT
エリマキシギ	(Philomachus pugnax)	減	-	-
ミサゴ	(Pandion haliaetus)	注	NT	NT
オジロワシ	(Haliaeetus albicilla)	減	II	VU
チュウヒ	(Circus spilonotus)	減環希注	I	EN
コミミズク	(Asio flammeus)	減	-	-
アカモズ	(Lanius cristatus)	絶	I	EN
ショウドウツバメ	(Riparia riparia)	減	-	-
コシアカツバメ	(Hirundo daurica)	絶	NT	-
オオヨンキリ	(Acrocephalus orientalis)	減	-	-
コヨンキリ	(Acrocephalus bistrigiceps)	減	-	-
セッカ	(Cisticola juncidis)	減	NT	-
コムクドリ	(Agropsar philippensis)	減	-	-
コジュリン	(Emberiza yessoensis)	希	II	VU
【両生類・爬虫類】				
アカハライモリ	(Cynops pyrrhogaster)	絶	-	NT
アズマヒキガエル	(Bufo japonicus formosus)	減環	-	-
ツチガエル	(Rana rugosa)	減環	-	-
トノサマガエル	(Rana nigromaculata)	減環	-	NT
ニホンアカガエル	(Rana japonica)	減環	-	-
クサガメ	(Mauremys reevesii)	減注	-	-
【魚類】				
ニホンウナギ	(Anguilla japonica)	減注	-	EN
オオキンブナ	(Carassius auratus buergeri)	減	-	-
ヤリタナゴ	(Tanakia lanceolata)	減環注	-	NT
ドジョウ	(Misgurnus anguillicaudatus)	減環	-	DD
ナマズ	(Silurus asotus)	減環	-	-
キタノメダカ	(Oryzias sakaiumii)	減環	-	VU
イトヨ(日本海型)	(Gasterosteus aculeatus aculeatus)	減環	II	LP
シンジコハゼ	(Gymnogobius taranetzi)	注	NT	VU
【昆虫類】				
マダラヤンマ	(Aeschna mixta)	減環注	II	NT
ハネナシアメンボ	(Gerris nepalensis)	環注	NT	-
エサキアメンボ	(Limnoporus esakii)	環希注	I	NT
ヒメミズカマキリ	(Ranatra unicolor)	環注	NT	-
ヒメマルミズムシ	(Paraplea indistinguenda)	環希注	I	-
マルケシングンゴロウ	(Hydrovatus subtilis)	環希注	I	NT
ヘイケボタル	(Luciola lateralis)	減環注	-	-
ゲンジボタル	(Luciola cruciata)	減環注	-	-
ヤマトヒメダカカッコウムシ	(Neohydinus hozumii)	環	NT	-
イネネクイハムシ	(Donacia provostii)	減環注	DD	-
オオチャバネヨトウ	(Nonagria puengeleri)	希注	NT	VU
キスジウスキヨトウ	(Archana sparganii)	希	-	VU
ガマヨトウ	(Archana aerata)	希注	NT	VU
チャバネキボシアツバ	(Paragabara ochreipennis)	注	NT	-
【その他の無脊椎動物】				
ヨコハマシジラガイ	(Inversiunio jokohamensis)	希注	VU	NT
ドブガイ類	(Anodonta spp.)	減	-	-
マシジミ	(Corbicula leana)	環注	NT	VU
ヤマトシジミ	(Corbicula japonica)	絶	DD	NT
マルタニシ	(Cipangopaludina chinensis laeta)	絶	-	VU
カワザンショウガイ	(Assiminea japonica)	減環	NT	-
ナガオカモノアラガイ	(Oxyloma hirasei)	減環注	NT	NT
テナガエビ	(Macrobrachium nipponense)	減	-	-
クロベンケイガニ	(Chiromantes dehaani)	減環	-	-
ハッタミミズ	(Drawida hattamimizu)	減環希注	I	NT

※選定基準:絶(絶滅), 減(減少), 環(環境), 希(希少), 注(注目)の5つのカテゴリーで示した。

国:平成24年に環境省が公表した第4次レッドリストにおける評価により, EX(絶滅), EW(野生絶滅), CR(絶滅危惧 I A類), EN(絶滅危惧 I B類), VU(絶滅危惧 II類), NT(準絶滅危惧), DD(情報不足), LP(地域個体群)で表示した。

県:改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物, いしかわレッドデータブック(動物編)2009および(植物編)2010における評価により, EX(絶滅), EW(野生絶滅), I(絶滅危惧 I類), II(絶滅危惧 II類), NT(準絶滅危惧), DD(情報不足), LP(地域個体群)で表示した。

○ 干拓前後の河北潟の変遷(6)

定塚 謙二

プランクトン相の変遷

2) 干拓後

約10年を費やした本湖の干拓工事は1971年におよそ1/4の残存水域を調整池として残し完了した。結果として徐々に淡水化と富栄養化が進行したことは既に述べたとおりである。

干拓完了直後のプランクトン相の調査例は必ずしも多くない。1971年から1972年にかけて行われた調査では前報で述べた *Sinocalanus tenellus*、*Pseudodiaptomus inopinus*、等の橈脚類や *Keratella crusiformis* 等の輪虫類などの純汽水種は大幅に減少し、僅かに記録されたのみである。動物性プランクトンとしては *Asplanchna sieboldi* 等の輪虫類や橈脚類のノープリウス幼生等の純淡水性種が多くを占めていた(上条他、1973)。これらのこととは干拓終了後、塩素量の減少経過からも明らかなように残存水域の淡水化が徐々に進行したことを見せるものであろう。また上条等はらん藻・珪藻・緑藻などの植物瀬プランクトンや護岸壁などに付着する付着藻類の種類組成を汚水生物学的に精査した結果から、好汚水性種が徐々に増加していることから富栄養化が進行しつつあることを指摘しているが詳細は省略したい。

金沢大学の川端教授等は干拓後約20年経過した1990から1991年にかけて完全に淡水化した本湖の

陸水学的調査を行い、動物性プランクトンについても詳細明らかにした(K. Kawabata等 1994, 2003)。橈脚類に関しては云うまでもなく干拓前に多量に見られた汽水種は完全に影を潜め、*Eodiaptomus japonicus*、や *Cyclops vicinus* 等の橈脚類をはじめ *Diaphanosoma brachyurum* (枝角類: 一般に「ミジンコ」とよばれる)、*Brachionus diversicornis* 等の純淡水性輪虫類のみとなつた。塩素量のデータ(湖面中心部で50mg/l以下)と併せて完全に淡水化したことを見ている。特筆すべきは、1) *Achantocyclops robustus* と *Mesocyclops pehpeiensis* の橈脚類2種は本邦初記録であることと、2) *E.inopinus* が干拓以前からみとめられたことで、本種が極めて特異な広塩性種であることを示すものである。

以上のことから明らかなように一時的には放水路の防潮水門や大野川水門の不備により海水の逆流に起因する局部的な塩分増加が認められた以外は残存水域はほぼ完全に淡水化され、同時に富栄養化が進行したものと考えられる。ただし淡水化が富栄養化を促進したことは否定すべくも無いが、富栄養化のすべての要因であると考えるのは早計で、汚染物質の流入が行政・企業・住民意識の向上により着実に減少しつつあることは論を俟たない。

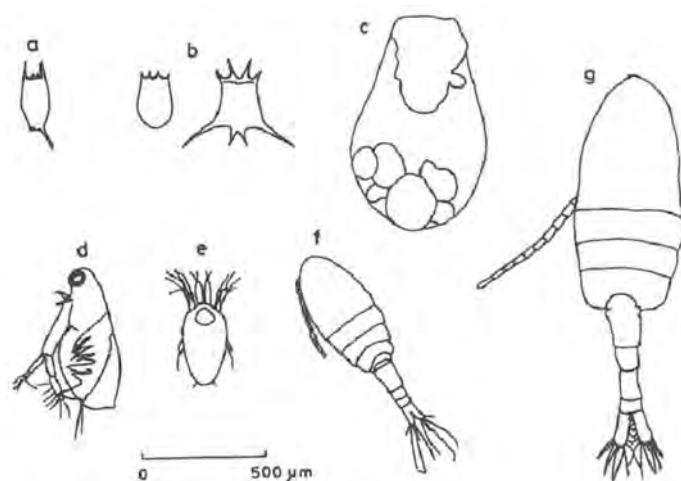


図1. 主なプランクトンの図

- a) *Brachionus diversicornis*
- b) *B. calciflorus* (長い突起があるものと無いものの2型がみとめられる)
- c) *A. sieboldi*
- d) *D. brachyurum*
- e) 橋脚類の幼生
- f) *Thermocyclops crassus* ♀
- g) *Shmackeria inopinus* ♀(川端 2003)

私の見た河北潟干拓地の30年(6)

大串 龍一

アカネズミの侵入と分布拡大

河北潟干拓地の姿はこの30年余りの間に大きく変わってきた。1970年代の干拓地は一望の湿原であった。排水工事が進んで土地が乾燥してゆくと、広い干拓地は人の背丈よりも高いアシの草原となった。その中に踏み入ると南か北か方向も判らなくなる。このアシ原の時代はとりわけ私の記憶にも鮮やかに残っている。

やがてこのアシ原もブルドーザーで押し開かれて、内灘砂丘の側から牧草地になってゆき、あるいは大豆畑やリンゴ園、ところによっては蓮田となっていました。干拓地全体はマツの防風林帯に取り囲まれ、中央を縦に走る幹線排水路と幹線道路沿いにも防風林帯が造られて、以前のように干拓地を見通すことが出来なくなつた。

この大きな景観の変化の中で干拓地のネズミを主とする小型哺乳類にも一つの大きな変化が表れた。それは表1にも示されたように、以前はここに住んでいなかったアカネズミが侵入してきて増加し、やがてこの干拓地のネズミの大半を占めるようになったことである。

アカネズミは石川県の山林にごく普通のネズミである。農山村の木立、街の中でもいくらかでも樹木が生えている庭園や神社、お寺の庭などには住み着いている。河北潟のあたりでも村の近くの木立や灌木の茂み、内灘砂丘の防風林などに住んでいる。広い畑や水田地帯には見られない。樹木が無い畑や草原に多いハタネズミとは違ってい



ハタネズミ(上)とアカネズミ(下)

アカネズミは、背中の毛色が赤茶色で、目が大きく、ハタネズミに比べて、尾や後足が長い特徴がある。

る。食べ物もアカネズミはクルミなど堅い樹の実や昆虫などを主としていて、軟らかい植物の緑の部分を食べるハタネズミと違っている。このいわば「森のネズミ」アカネズミが「野原のネズミ」ハタネズミに入れ替わったのが河北潟干拓地の大きな変化であった。これはアカネズミの住み場所となる木立が防風林などとして出来たことと、土地に草木が茂って有機質が増え、アカネズミの餌となる昆虫などが多くなつたためだろう。同じく昆虫やミミズなどの土壤動物を専門に食っているジネズミの増加もこれを示しているように思われる。

1970年代から90年代にかけてアカネズミの侵入と増加を見ていて興味あることを見出した。それは1980年代前半に干拓地のあちこちで一匹ずつ捕獲され始めたアカネズミはすべて雄だった。1980年代末から90年代になってアカネズミがたくさん捕れるようになり、定着したことが確かめられた時期になって雌が捕れるようになった。これから考えると、アカネズミにとって未開地である干拓

地にまず入ってゆく冒險をするのは若い雄で、樹林が茂って住み着く条件が出来てから初めて雌が安心して入ってくるらしい。どこか納得できるような気がする。

表1. 1年間に採集したネズミ・モグラ類の種と個体数

調査年度	ハタネズミ	ハツカネズミ	ドブネズミ	アカネズミ	ジネズミ
1976	13	39	2		2
1985	22	30			2
1990	19	18	1	4	13
1994	8	16		14	24
2002	7	16	4	88	16

河北潟西部承水路での水辺体験

さる2012年11月11日には、干拓地の環境保全活動組織のグリーン・アースと協力して、西部承水路において、植物や動物を観察するとともに、水辺の外来植物であるチクゴスズメノヒエの除去作業を体験するイベントをおこないました。また、同じ外来植物であるセイタカアワダチソウの有効利用として草木染めも体験しました。主に干拓地の酪農家のご家族に参加いただき楽しいイベントとなりました。



草木染めの方法を説明している川原奈苗研究員

今年もおこないました！ ～チクゴスズメノヒエ除去活動～

毎年実施している河北潟の外来植物チクゴスズメノヒエの除去活動は、河北潟の周辺地域での恒例の作業となっていました。11月4日にはかほく市領家・内日角地区で、11月9日には干拓地中央幹線排水路で、11月11日には内灘町西部承水路で、11月17日には金沢市柳瀬川付近で、11月18日には金沢市二日市川付近で活動を行いました。今年は延べ101名に参加いただきました。この取り組みを知る人も増え、毎年積極的に参加いただいている人もいます。だんだんと外来種に占拠された淀んだ水辺が減ってきています。



柳瀬川の近くの水路でおこなわれた除去活動

福島に河北潟の野菜を届ける活動



仮設住宅前での焼き芋のイベント（12月9日）

福島県に河北潟野菜を届ける活動が続いています。これは、河北潟湖沼研究所も応援する「河北潟の水辺を守り隊」が主催して実行している取り組みです。みなさまからいただいた募金をもとに、河北潟の農家から安く提供いただいた新鮮な野菜を直接被災地の方々に届ける活動をおこなっています。12月9日には、守り隊メンバー10名に津幡高校のトキサポート隊5名を加えた総勢15名で南相馬市の仮設住宅を訪れ、焼き芋「かほっくり」のイベントを行い、昨年同様に600個の焼き芋を配りました。福島の問題は解決までまだ時間がかかります。仮設住宅に住む人たちの先行きも未だ不透明な状態です。こうした困難な中にある福島の人たちと外にいる私たちが、つながりを実感できる活動として野菜を届ける活動をこれからも続けていかなければなりません。野菜購入のための募金へのご協力を引き続きよろしくお願ひいたします。

募金振込先

- ・石川かほく農業協同組合 津幡支店
普通0035624
- ・北國銀行 津幡支店
普通478037

◎口座名はどちらも

「河北潟の水辺を守り隊募金口座」です。



編集後記

慌ただしく月日が過ぎていきます。河北潟湖沼研究所は充実した活動を展開しております。ただ、相変わらず発行作業が遅れおり申し訳ございません。よりよい紙面になるようみなさまからのご意見もお寄せいただければ幸いです。(T)